

長橋さんが論文鳳賞

二部で初

懸賞論文・文芸作品コンクール

2015年度懸賞論文・文芸作品コンクール(学生部主催)の優秀作品が決まり、懸賞論文部門で最優秀の鳳賞に長橋孝典さん(二部法2)が二部生として初めて選ばれた。文芸作品部門は鳳賞の該当作がなく、柘植光彦文学賞に土田琴美さん(法3)が選ばれた。

柘植文学賞に土田さん

同コンクールは学生の幅広い能力と創造性を生かした作品を広く募り、論文部門が28回目、文芸部門は24回目。それぞれ14本、30作品の応募があった。12月7日、生田キャンパスで授賞式があり、阿藤正道学生部長から賞状と記念品が贈られた。

長橋さんの論文は「刺青から考える社会的排除と表現の限界」。近年、プールや入浴施設などで入れ墨をしている人が排除されていることに着目し「なぜなのか学問的に

鳳賞、柘植光彦文学賞以外の入賞者と作品名は次のとおり。
(敬称略)

- ◆懸賞論文
 - ▽優秀賞(賞金5万円)
 - ▽土城遥(人間科学3)
 - ▽自己呈示行動の観点からみるソーシャルメディア「利用」
 - ▽石井沙紀(同)「なくならないホームレス—寛容な社会を求めて—」
 - ▽石橋愛澄(同)「無縁社会が生んだ孤独死—縁を取り戻すには—」
 - ▽福島あかり(同)「流行が今を映し出す—『キヤラ化』でふさわしく目立つ現代人—」
 - ◆文芸作品
 - ▽優秀賞(賞金5万円)
 - ▽伊藤希(文3)「キズナチャット」
 - ▽島崎望(同)「同じ息をすう」
 - ▽檜谷侑香(文4)「泳げマンボウ」



懸賞論文部門鳳賞の長橋さん(左)と柘植光彦文学賞の土田さん

さまざまな人に話を聞き、文献に当たりながら論を構築することで、「問題を冷静に捉えることができるようになる」という。論文部門審査委員長の岡宏文学部教授は「独特の切り口で考察し、社会的提言にまで至っている」と評価した。

長橋さんは「二部生にももっと書いてほしい。作品募集開始後に講座などがあれば、挑戦しやすいのではないかと話した。

- 【佳作(賞金2万円)】
 - ▽関野弥有(同)「日記」
 - ▽松本美鈴(文2)「聖夜のホテル改革」
 - ▽古家典典(文4)「深更行脚(しんこうあんぎや)」
 - ▽間庭百花(人間科学4)「悪趣味な食卓」
 - ▽袴田真尚(院文修1)「確かなもの」
 - ▽中田光政(院文修3)「錆びた町に色を塗る」

三曲研究会 吹奏楽研究会 全学応援団

学生部長賞に3団体

サークル活動の活性化を図るため、顕著な活躍があったサークル・団体を表彰する2015年度の学生部長賞に、三曲研究会、吹奏楽研究会、全学応援団が選ばれた。3団体受賞は4年ぶり。受賞理由は次のとおり。

- ▽三曲研究会(56人) 23大学が所属する関東学



響くハーモニー グリークラブが昼休みコンサート

昼休みのひとときを音楽で彩るミニコンサートが1月14日、生田キャンパス9号館アトリウムであった。男声合唱団グリークラブ(竹内悠代表)が、高らかに歌声を響かせた。

4年次生を含め計18人が出演。校歌やエル專修を力強く歌ったほか、アニメ主題歌などで盛り上げた。

竹内さんは「グリークラブを知らない学生も多いので、知ってもらいたい機会になった。今後、男声ならではの独特で繊細なハーモニーを響かせていきたい」と話している。

「遠藤周作の本がほしい」と努力賞の図書券目当てに初めて小説に挑戦した土田さん。タイトルは「Journey in Moscow」。小林恭二文学部教授は全書をとおして「初めて鳳賞の受賞がなく残念。小入賞作は本年度末に作品集として発刊される。

さまざまな出来事を織り交ぜた。6万7千字にもなる長編だが「一気に書き上げた」という。文芸部門審査委員長の部名譽教授(11年死去)の遺志を継ぎ、12年に創設された鳳賞、柘植光彦文学賞は賞金20万円。入賞作は本年度末に作品集として発刊される。

生三曲連盟新人演奏会において、11年連続して最優秀賞を受賞。また、今年度創立50年を迎え、定期演奏会も47回を数え、日々精力的に活動を行っている。

- ▽吹奏楽研究会(59人) 第38回東京都アンサンブルコンテストでトロンプーン四重奏銅賞、15年度

東京大学吹奏楽コンクールで金賞を受賞。また、近隣の小学校での指導や学外パレードなど地域活動にも大きく貢献している。

- ▽全学応援団(34人) リーダー部、チアリーダー部、吹奏楽部の3部で構成され、建学の精神を念頭に学生の範を示して活動。東都大学野球春季リーグ戦で優勝を決めた試合では、6000人超の大観衆が詰めかけた。

援席で見事な統制をとる。リーグ最多32回目の優勝に大きく花を添えている。

- 15年度後期・国際交流奨励生に2人
- 学生の海外での調査活動やボランティア活動などを支援する。学生部の2015年度後期海外研修・国際交流奨励生に2人が決まった。渡航する目的、計画を審査のうえ、奨励金として渡航費用の一部を支給する。
- 奨励生と渡航先、期間、目的は次のとおり。
(敬称略)
- ▽木村圭太(経済2) コンゴ民主共和国/2月4~12日「コンゴのおしやれ集団の調査」
- ▽郡司千鶴(経済3) タイ/2月1~14日「チエンライ県での山岳民族の本語・日本事情プログラム」

17人が参加
日本事情プログラム
日本語学習を希望する外国人のための「冬期日本語・日本事情プログラム」が1月8日から始まった。2月27日まで留学



書道を体験する留学生

生寮「国際交流会館」に滞在し、日本語や日本文化について学ぶ。参加者は韓国の国際交流協定校とチリの短期留学生のほか、今年度、交換留学生として専大で学んでいるドイツ、ベトナムの特別聴講生計7大学17人。午前中はレベル別クラスで日本語を学ぶほか、午後は歌舞伎鑑賞や書道、折り紙教室、ひなまつりパーティーなどさまざまな活動を通して日本文化に親しんでいる。また、川崎市との共催による豪ウロンゴン大学(国際交流協定校)学生のためのプログラムも開講され、10人が1月9日から1週間、国際交流会館に滞在。30日まで市内のホームステイ先から通学して日本語を学び、川崎市長表敬訪問や市内の高校訪問などを通じて市民や専大生と友好を深めた。

多彩な国際交流活動

◆国際交流協定校(17カ国・地域22大学)

韓	国	檀国大学
中	国	上海大学/西北大学/北京大学国際関係学院
台	湾	国立中山大学
モン	ゴル	モンゴル国立大学
ベ	ト	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学/国民経済大学
ラ	オ	ラオス国立大学
カン	ボ	王立ブノンベン大学
ア	メ	ネブラスカ大学リンカーン校/サスケハナ大学/オレゴン大学
カ	ナ	カルガリー大学
メ	キ	イペロアメリカナ大学
イ	ギ	プリストル大学
ア	イル	ダブリン大学トリニティカレッジ
ド	イ	マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク
ス	ペ	バルセロナ大学
フ	ラ	リヨン政治学院
オ	ス	ウーロンゴン大学
ニュ	ー	ワイカト大学

◆国際交流組織間協定校(4カ国8機関) ◆研修校(4カ国5校)

高橋裕国際交流センター長(前列中央)と長期交換留学生たち

- ▽岡江通(二部経済3)
- ▽リヨン政治学院(フランス)
- ▽山本美紅(法2)
- ▽バルセロナ大学(スペイン)
- ▽岡本英志(文3)〈英語圏〉
- ウーロンゴン大学(オーストラリア)
- ▽コネリー瑛央(文2)